平昌最終予選

ＩＨ女子 五輪1号

3連勝で2大会連続

アイスホッケー女子の平昌冬季五輪最終予選最終日は12日、北海道苫小牧市の白鳥王子アイスアリーナで行われ、世界ランキング7位の日本は同8位のドイツを3—1で下し、3戦全勝の勝ち点9として2大会連続の五輪出場を決めた。全競技を通じて日本勢の平昌五輪出場権獲得は初めて。

日本は第2ピリオドに藤本も（トヨタシグナス）のゴールで先制。さらに小野（御影グレッズ）が決めてリードを広げた。1点を返されたが、その後はGK藤本那（ホルテックス札幌）を中心に守備で踏ん張り、第3ピリオドには久保（西武）が3戦連続となる貴重な追加点を決めた。

久慈設計（本社盛岡市）東京支社に勤務するGK小西あかね（西武、北海道・釧路東高）は3試合ともベンチ入りしたが、出場はなかった。

ドイツが勝ち点5で2位。フランスはオーストリアを3—1で破り同4で3位、オーストリアは同0だった。

日本（9）3（0—0　2—1　1—0）1 ドイツ（5）

▽得点者【日】藤本も、小野、久保

日本—ドイツ　第2ピリオド、先制点を決める藤本も（中央）＝白鳥王子アイスアリーナ

体張って体格差克服

最後まで体を張り、スタンドを埋めた約3千人の観客のカウントダウンを聞いた。試合終了のブザーをかき消すほどの歓声に包まれ、日本の選手は氷上でもみくちゃになって喜んだ。「スマイルジャパン」を地元で五輪出場に導き、胴上げされた山中監督は「幸せです」とかみしめた。

負ければ五輪への道が絶たれる大一番で、気迫がみなぎった。平均身長で7㌢以上も高いドイツの強烈なシュートをGKやDFだけでなく、FWの久保や浮田も体を投げだし阻んだ。久保は「ゴールに届けば何が起きるか分からない。シュートをさせないという思いだった」と振り返った。

目標の被シュート数を1試合15本と設定。第2ピリオド終了時点で11本だった。山中監督が「あと4本」と発破を掛けた第3ピリオド、選手はその通りに抑えてみせた。「実行力がある。体を張ってくれた選手を誇りに思う」。これまで目標を細かく数字で示してきた指揮官に選手は応えた。

危ない場面が何度もあった展開で、2—1の第3ピリオドに久保が3試合連続となる見事なゴールを奪い、勝利を大きくたぐり寄せた。3試合で13得点、3失点。4年前の劇的な突破と違い、勝つべくして勝った。「今の私たちならメダルを狙える力を1年間でつけられる」と大沢主将。前回は悔し涙に終わった大舞台に、大望を抱いて再び挑む。

２大会連続で五輪出場を決め、笑顔で記念写真に納まるアイスホッケー女子日本代表

大一番でベスト

山中武司・日本代表監督の話　本当にうれしい。最後の最後に素晴らしいホッケーをしてくれた。大一番でベストゲームをしてくれたことを誇りに思う。

控えでいい経験

小西あかねの話　4年前は予選に行けなかったので、ベンチに入って（控えGKとして藤本）那菜さんのサポートができたのはいい経験になった。

2017年2月14日付　岩手日報　スポーツ欄　18面